

30周年おめでとうございます。皆様のますますのご発展を祈念いたします。

1998年に青年海外協力隊（JOCV）を「卒業」しましたが、訓練から活動終わりまで全てが私にとってかけがえのない経験となりました。派遣前訓練の長野県駒ケ根市での77日間は、語学と体力づくり、任地での病気に備えた感染症の予防接種を受けました。訓練所からは、中南米だけでなく、アフリカ、欧州（当時）、大洋州など世界各地に隊員が派遣されました。この短い期間の共同生活ののち世界中に知り合いができるのは、任地での活動を含め JOCV にしか体験できないことです。もし今就職で迷っている方がいたら、まずは応募資格を読んで是非参加して頂きたいと思います。

さて当時の活動ですが、ICTA という農業科学技術庁のケツアルテナンゴ試験場で2年間を過ごしました。試験場の家畜（山羊、羊）の出生率、低木の葉（セイヨウニワトコ）を使った乳量と乳質の実験を論文にまとめ、ICTA 等で報告発表をしました。これらは語学の習得に効果がありました。任期延長の3年目は、県内の庭先農家を訪問しました。山がちな地形に住む地元の方々の作物以外の貴重な収入源は羊でしたが、もともと中米には山羊も羊も生息していなかったこともあり、満足な体躯の個体が少ないことが心配されていたので、種雄を導入しました。種羊3頭を3つの離れた地域に貸し出し、少なくとも週1回訪問し出生率を調べました。

家畜飼育隊員としての活動以外には、要請があったので毎週土曜日に、国立サンカルロス大学の言語センターで日本語の授業を受け持ち半年間続けました。これは人前で話す自信につながりました。当時ケツアルテナンゴ市には職種の違い JOCV が5、6人いたので、週に2～3回活動が終わった後の夕方に集まって皆で次の授業の構成を考え、受け持ちパートを決めました、資料作りには首都で活動していた日本語教師隊員の協力を得たことも良い思い出です。

沢山の縁があり、現在私は在グアテマラ日本国大使館で現地職員として働かせて頂いています。近くにお越しの際は気軽に声をかけて下さい。



青年海外協力隊駒ヶ根訓練所 平成6年度3次隊 平成7年1月11日

